

ここにしかない、
かけがえのない多治見

内容改訂しました!



吉田もとたか

多治見市2030年ビジョン

吉田の3大政策

- こども** 子どもにとって「いいまち」は、誰にとっても「いいまち」。それは、大人になったときの「住みたいまち」。
- しごと** 働く場所があるから住み続けられる。多様な働き方があるから住みたいと思える。
- くらし** 暮らしやすいから、いいまちだから次の世代につながっていける。



ご意見ください

「多治見市2030年ビジョン」は市民の皆様の想いを集めるたたき台です。ご意見・ご要望は下記QRコードからお気軽にお寄せください。

吉田企業後援会
LINE 公式アカウント





よしだ もとたか
吉田 企貴

地元育ちの34歳。現在市議会議員として
2期目。2児のパパとして奮闘中。

人口減少と 向き合う理由

「消滅可能性都市」というフレーズを覚えているでしょうか？

この不名誉な称号を多治見市が押し付けられたのは

2014年のことです。

あれから8年、多治見市では約5千人の人口が減っています。

人口減少そのものを避けることは難しいかもしれません。

しかし、それを遅らせることはできます。

市民にとって多治見市が暮らしやすいまちであり続けるためには、

将来を見据えた長期的なビジョンと

具体的な解決策を示していく必要があります。

政治がそれに挑戦し、実現していくことで

多治見市は「選ばれるまち」へと変化することができます。

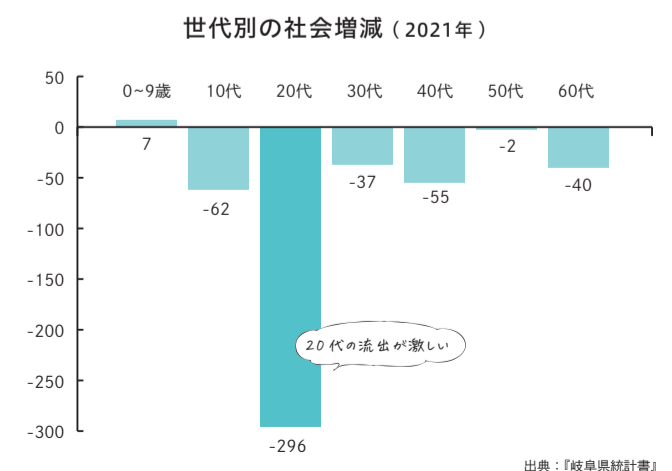
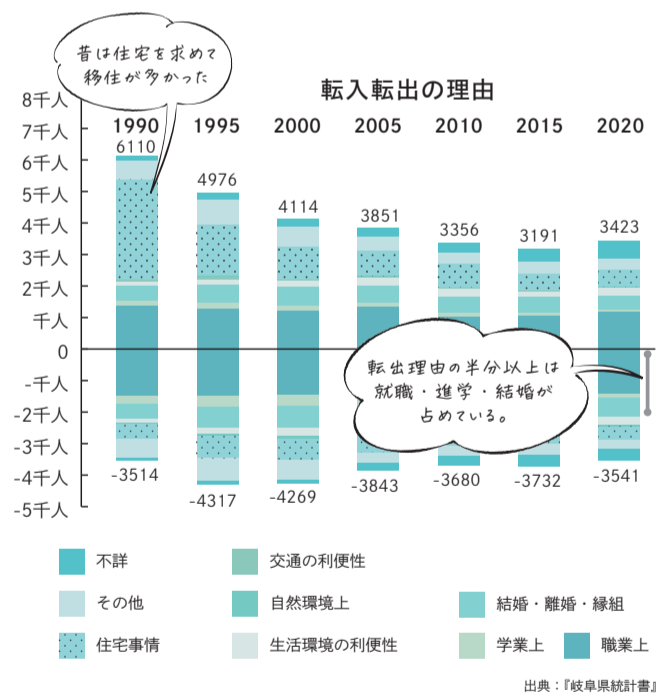
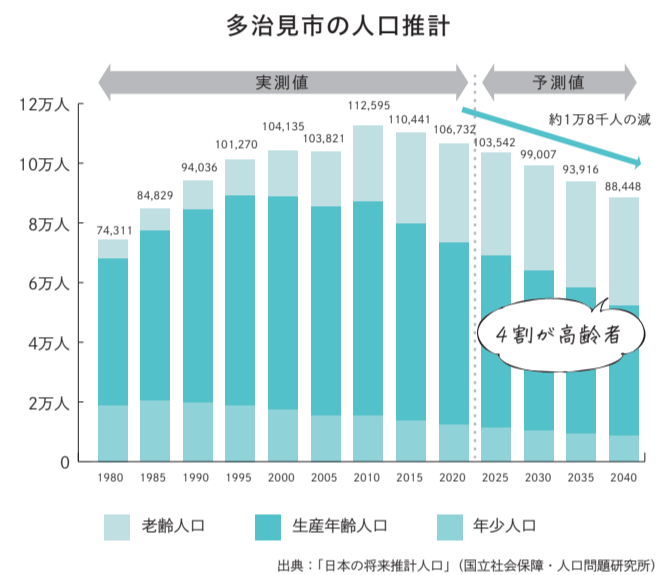
若い世代の流出を防ぎ、子育て世代が多治見で暮らしたい、

住みつづけたいと感じてもらえることが、

すべての市民にとって幸せを実感していただける

多治見市への第一歩であると私は考えます。

だからこそ、いま人口減少と向き合わなければならないのです。



人口減少が引き起こすもの

郊外団地の空洞化

かつて一斉に造成された郊外団地は、同じく一斉に高齢化を迎えています。空き家問題の放置は、地域コミュニティの崩壊や生活インフラの低下を招きます。郊外への移住定住を促すことで空洞化を防ぐ必要があります。



小学校の児童数の減少

近隣市では小学校の統廃合が進められています。多治見市ではまだ現実的ではありませんが、近い将来向き合っていかなければならない問題です。これを防ぐためにも子育て世代の流入を促さなければなりません。

公共交通の崩壊

利用者の減少でバス路線の撤退が進んでいます。一方で、地域の足としての地域公共交通の重要性は高まる一方です。時代に即した公共交通の在り方を考え直す必要があります。



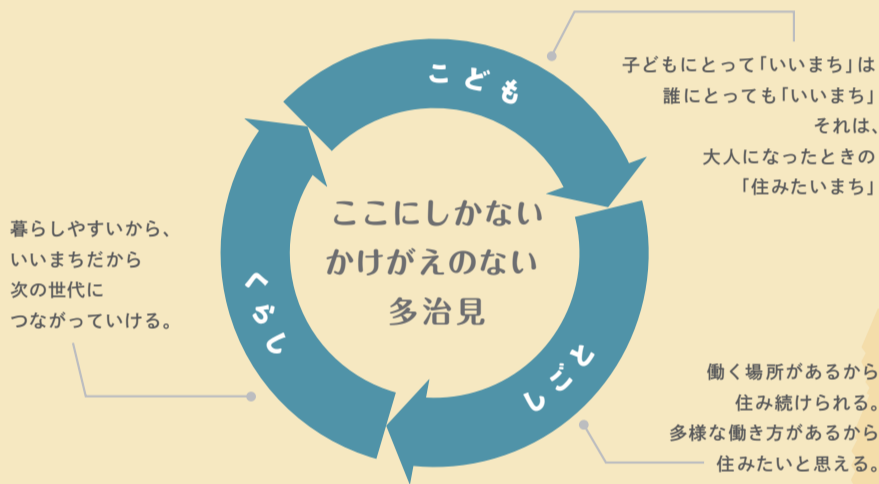
福祉人材の担い手不足

人口減少と共に高齢化が進む中、福祉を担う人材の必要性がますます高まっています。一方で、人口減少はその担い手を減少させます。働きやすい福祉をつくと共に、担い手確保に向けて手を打っていかねばなりません。

吉田が目指すまち

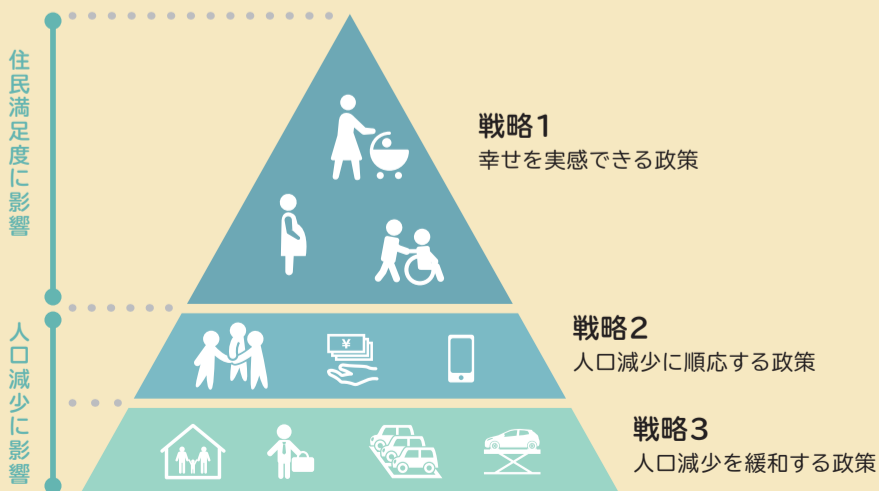
「選ばれるまち」であるために

多治見市で暮らしたい、住みつづけたいと感じていただくためには、多治見にしかない魅力を発信していく必要があります。私は、そうした「かけがえのない」魅力を活かしたまちづくりを目指しています。そして、それを実現する上で大切にしている3つのキーワードが「子ども・しごと・暮らし」です。この誰にとっても当たり前で、それでいてかけがえのない要素に重点的に投資をしていくことで、多治見市は「選ばれるまち」へと変わっていくことができるのです。



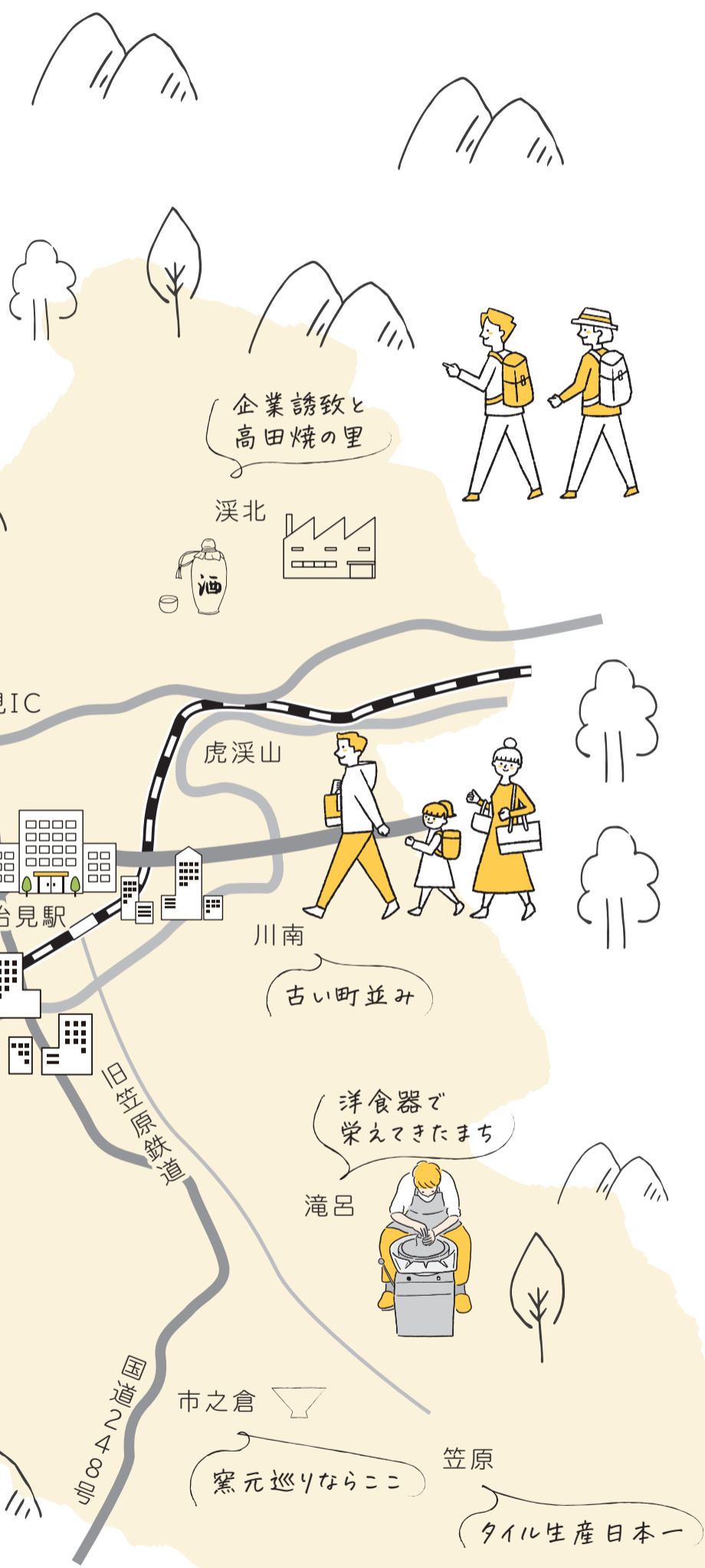
人口減少と向き合う

「かけがえのない多治見」をつくっていく上で、人口減少は向き合わないわけにはいかないテーマです。そして、住みつづけたいと想っていても、現実的に住みつづけれないという事態は解消していかねばなりません。そのためには、「幸せを実感できる政策」を実現してだけでなく、人口が減ることを前提として、少しでも人口減少を緩和する政策を打っていく必要があります。



の姿

ここにしかない かけがえのない多治見



地域の特色を活かした まちづくりを進めます

駅北 行政機能の集積による消費喚起

コンパクトシティの核として市役所本庁舎の移転を進めます。公共交通のハブ機能を強化し、便利で快適なエリアをつくることで市内全域から訪れやすく、すべての市民が楽しめる空間づくりを進めます。

駅南 非日常が楽しめる中心市街地

東濃の玄関口にふさわしいまちづくりを進めます。市民はもちろんのこと、市外からも訪れたい魅力的な飲食店や雑貨屋さんが集まっているのがこのエリア。遊びに行くなら多治見でしょ?と言われるまちを目指します。

川南 まちなみを活かした賑わい創り

多治見の源流はここに 있습니다。そのまちなみは多治見市の歴史そのもの。多治見で育つ子どもにとって原風景の一つになり得るのがこのエリアです。人が集い、育つまちを目指します。

やきもの通り道 旧・東濃鉄道笠原線沿いに 広がる焼き物産地

かつて多治見駅から笠原へ向けて伸びていた鉄道は多治見市の発展を支えました。今もこのエリアには美濃焼やタイルの窯元が軒を連ねています。このエリアを「やきもの通り道」として一体的に捉え相乗的な魅力を創っていきます。

溪北 虎溪山と高田焼とハイテク産業

虎溪山～高田・小名田一帯を溪北と呼びます。永保寺をはじめとする観光資源や400年の歴史を誇る高田焼の産地として有名です。近年は企業誘致が進み、伝統と最先端が融合したエリアです。

太多線沿線 子育て世代に魅力的なエリア

ミニ開発によって人口が増えているこのエリアでは子育て世代が暮らしやすいまちづくりが特に必要です。豊かな自然を残しつつ、子どもたちにとっても暮らしやすい施設整備が求められます。

郊外団地 暮らしやすいコミュニティ

急激な人口減少は地域のコミュニティを崩す可能性が有ります。それを防ぐためには空き家の活用等を通じて郊外団地への移住定住を進めると共に、サロン活動の支援等の政策を行っていきます。

吉田企貴が

こども ファースト



子どもにとって「いいまち」は誰にとっても「いいまち」。これが「こどもファースト」の根本にある考え方です。子どもにとって「いいまち」を目指すには、子どもだけでなく、親や学校、地域を含めた社会全体が大切にされる必要があります。

また、人口減少と向き合っていくためには、次の時代を担う子どもたちへの投資を惜しんではいけません。多治見市が持続可能な都市であるためにも「こどもファースト」は「丁目一番地」の政策です。



New

給食費の無償化を実現

給食費は子ども一人あたり年間7万円程が家庭の負担となっています。社会は子育ての当事者です。少子化だからこそ、子ども達を社会全体で育てていくという考え方が求められています。

働く子育て世代を応援

働いている子育て世代にとって、子どもの急な体調変化や第二子誕生後も切れ目のない保育サービスを受けられるかは、仕事を続ける上で直面する課題です。働いているときも、育休の時も、子どもが体調を崩した時も、働き方に応じた多様できめの細かい子育て支援を実現していきます。

これからを生き抜く力を育む教育の充実

変化の激しい時代、一人ひとりの個性や特性に応じた教育を提供することで、それぞれの才能を活かせる地域づくりを進めていきます。

New

子どもが保育園で熱を出しても大丈夫

子どもが発熱しても、どうしても仕事が休めない。そんな切実な想いを抱えながら働くお父さん・お母さんが、安心して子どもを預けられる施設の整備が求められています。子どもにとっても、働く子育て世代にとっても必要とされる施設の整備を進めます。

支援を必要とする子どもへの配慮

早期療育や発達支援を必要とする子ども達への配慮や放課後等デイサービス事業への支援も強化します。また、バリアフリーやユニバーサルデザインの導入を推進するとともに、自治体DXを通じて一人一人に最適化した福祉を提供できる体制構築を推進します。

IT教育県内NO.1

情報社会の進展はIT技術の習得を必須のものとしつつあります。また、スマホやパソコンが「使える」だけでなく、課題解決のためにデータを「どうやって使うのか」「何のために使うのか」という情報を分析し思考する能力を身に付けられる教育に取り組めます。

生まれてくる子どもにやさしいまちづくり

安心して出産を迎えるためには、市内に産科の病院が複数立地していることが望ましく、多胎出産などの難産であっても対応可能な高度医療を備えた公的医療機関との連携も不可欠です。そして、生まれてきた子どものためにも産前産後のサポートを充実していかなければなりません。

ひとり親家庭の支援

経済的に厳しい状況に置かれたひとり親家庭や多子世帯が増加傾向にあります。こうした家庭に対し、行政サービスを十分に行き届けることや、複数の困難を抱える人に対しても一人一人に寄り添った支援、ひとりで過ごす時間が多い子供達に対し学習支援も含めた温かい支援等を実施していきます。



取り組む政策

高齢者の活躍を支援

多様な地域課題を解決するために、人生経験の豊富な高齢者は地域における大切な人財です。一人ひとりの健康状態に合わせた活躍の場を支援するとともに、積極的な活動を通じて健康寿命の延伸にもつなげていきます。

介護予防の充実

元気な高齢者が活躍するまちの実現は、健康寿命の延伸を促し、介護費用の削減等につながっていきます。高齢者サロンの拡充や健康診断の受診率の向上を目指します。



福祉を担う人材育成を支援

地域で支え合う福祉を実現するためにも、それを担う人材の育成は急務です。各事業所に丸投げするのではなく、市内全体のレベルアップにつながるような支援体制を構築します。

行政の縦割りを超えた相談支援体制を構築

これまでのように子ども・障がい者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの支援体制だけでは多様なニーズへの対応が困難になっています。こうした新たな課題に対応していくために、市役所だけではなく関係機関との連携の構築を通して、断らない相談・速やかな支援へと繋げていきます。



福祉 寄り添う



消防団員の負担軽減

New

災害が起きたとき、一番近くで頼りになるのは消防団です。今、消防団のなり手不足が深刻化しています。この問題を解消するためには、県操法への参加見直しも含めた行事の見直し等、団員の負担軽減を図ると共に処遇改善を実施していきます。

交通渋滞の解消に取り組めます

多治見市民にとって、生活するうえで一番ネックになっているのが交通渋滞です。買い物や病院に行くとき、スムーズで快適な移動ができるよう道路改良や仕組みづくりを進めます。

市民にとって使いやすい自治体DXの推進

効率的な行政運営を目指すDXを推進します。サービスを受ける側にとって使いやすい、便利な仕組みを目指します。それが結果的に行政コストの低減につながり、そこで浮いた人的・物的資源を市民と向き合い、寄り添うために使えるようにします。



課題 その他の

多様な働く場の創出

働く場の確保は、若い世代に多治見を選んでもらうためには必須の政策です。また、女性や障がい者、多様な価値観を持った人にとっても働きやすい環境を整えます。働くなら多治見でしょ?と言われるまちを目指します。

地場産業の振興で地域ブランディング

地場産業は全てが「made in地元」です。すなわち雇用も、税収も地元還元されることから、地域の自立性や独自性を高めていく上で、地場産業振興の果たす役割は大きいものがあります。また、地域ブランディングや多治見で育つ子ども達の郷土愛を高めるために、美濃焼の魅力を発信していく必要があります。

多治見駅周辺の賑わい創出

多治見市の顔であり、東濃の玄関口である多治見駅は、多くの人が集まる交通の結節点です。訪れたい、遊びに行きたいと市民が感じる空間を創るとともに、市外からも「さすがは東濃の雄都・多治見」と言われるようなインフラ整備を進めていきます。

起業・創業支援でベンチャー企業を集積

多治見市に本社機能を構える企業が集積が雇用・税収・消費喚起といった観点から最も有効です。中長期的に考えたとき、そのために重要なのは多治見市で起業・創業したいという挑戦者が集まってくることです。企業版「小さく生んで大きく育てる」作戦です。

詳細版はこちら



市民と共につくる

政策決定

たたき台である「吉田プラン」をもとに、市民の皆様と共に多治見市の目指すべき将来像を具現化していきます。多治見市にとって、いま必要なことは何なのか？まちの方向性を選択するのは市民の皆様自身です。私たち政治家は、その選択肢を提示する役割を果たしていきます。

まちへの思い

まちづくりの原点は、市民の皆様の「まちへの思い」にあります。市民一人一人にとって、多治見がどういう街であって欲しいのか、それを一つ一つ大切にしていきたいところから「まちづくり」は始まります。

まちづくりの好循環

具体化

市民の皆様の声を受けて作成したのが、この「多治見市2030年ビジョン」です。このビジョンは、吉田が多治見市を歩いて回って様々な方にお話を伺う中で抽出した課題に基づき、市民の皆様と一緒に議論するための「たたき台」として作成しました。

合意形成

まちには多様な価値観が存在します。まちづくりにおいて、全員が賛成できる課題というのは決して多くはありません。様々な考え方があからこそ、丁寧な合意形成が必要です。政治家は、それに対して対話を通じて取り組んでいく責任があります。

声を聴く

政策形成において市民の声を聴くためには、できるだけ多くの窓口が用意されていることが望ましいと言えます。「多治見市2030年ビジョン」策定にあたっては、対面による他、Webアンケート等の多様な手法を用いて市民の声を聴く機会を設けてまいります。

SNSの活用

LINEやFacebookをはじめ各種SNSで情報発信を展開しています。日々の活動や政策等については主にFacebookとInstagramを、市政報告会のお知らせ等については公式LINEを主に活用しています。個別でのご相談や各種SNSへのリンクについては公式LINEから繋がるができますので、まずは公式LINEへのご登録をお願いします。



みんなの知恵を集めるカフェ

3人以上お集まりいただければ市内どこでも伺います。もちろんWeb会議もOKです。「吉田プラン」のポイント解説や多治見市への基本的な疑問にもお答えします。「たたき台」をもとに市民の皆様と自由な意見交換を実施していきます。また、学生の方の参加も大歓迎です。



webアンケート

一人一人の声に耳を傾けると共に、市民全体の意見をビッグデータとして分析していくことも重要です。下記QRコードを読み取りアンケートにご回答いただくことで、皆様の貴重なご意見を大局的な観点から活かすことができます。可能な限り多くのご意見が賜ればと思いますので、ご友人等へもご紹介ください。



事務所

〒507-0004
岐阜県多治見市小名田町6-144

TEL・FAX **0572-51-4930**

<https://mototaka.info/>



プロフィール

平成18年 高校まで地元で育つ
平成18年 東京都立大学へ進学
平成22年 十六銀行へ入行

平成25年 高田陶磁器工業協同組合で勤務
平成27年 多治見市議会議員初当選
平成31年 2期目トップ当選